

「復活する」

2016年01月23日

ルカによる福音書 23章 56節 b~24章 12節。婦人たちは、安息日には掟に従って休んだ。そして、週の初めの日の明け方早く、準備しておいた香料を持って墓に行った。見ると、石が墓のわきに転がしてあり、中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。そのため途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに現れた。婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」そこで、婦人たちはイエスの言葉を思い出した。そして、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始終を知らせた。それは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいた他の婦人たちであった。婦人たちはこれらのことを使徒たちに話したが、使徒たちは、この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった。しかし、ペトロは立ち上がって墓へ走り、身をかがめて中をのぞくと、亜麻布しかなかったので、この出来事に驚きながら家に帰った。

主イエスは復活された。これは「復活」という名詞ではなく、「復活する」という動詞で捉えられる出来事であった。福音書記者たちは「起こされる」という言葉で著している。四つの福音書はニュアンスを異にして書かれているが、主イエスが起こされたことは確かであると、工夫を凝らし生き生きと証言している。ルカの証言は下記の通りである。

婦人たち（マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいた他の婦人たち）は主イエスの埋葬を見守った。安息日明けをまんじりともしないで待ち、週の初めの日の早朝、遺体に再度塗り直すために準備しておいた香料を持って墓に急いだ。すると、墓を塞いでいた石がわきに転がしてあり、墓の中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人（天使）が現れた。婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、天使は「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか」と告げた。彼女たちは、三度も死と復活について語られた主イエスの言葉を思い出した。急いで、墓から帰り、ユダを除く11弟子たちと他の者皆に、墓での出来事の一部始終を知らせた。婦人たちの話を聞いた人々は、死人の復活などばかげた話だと、彼女たちの証言を信じなかった。

しかし、ペトロは立ち上がって墓へ走った。身をかがめて墓をのぞくと、主イエスの遺体はなく、遺体を包んだ亜麻布が置かれているだけであった。ペトロは不思議な出来事を見、何が起こったのかと当惑しながら、家に帰っていった。

天使は「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ（起こされたのだ）」と告げている。主イエスは死を突き抜けて、生へと起こされ、生きておられる。この「復活する」出来事に永遠の神が啓示されている。婦人たちの証言を受け入れる者は「起こされる」。虚無と死から神の命に与る救いであると福音書記者たちは懸命に伝えようとしている。